SERIES 市町村体育協会だより

久慈市体育協会

昭和二十九年久慈市誕生とともに、体育関係者の努力により、市民の体力の向上及びスポーツ精神の涵養に資することを目的に、久慈市体育協会が創立されました。体育協会の組織が充実し大きくなるにつれ、団体として対外的にも信用が問われることが多く、法人化が不可欠の時となり、先輩諸兄のご努力と関係各位のご厚情とご支援により、平成元年一月、社団法人久慈市体育協会として発足し、生涯スポーツの振興はもとより、社会体育施設の管理運営に鋭意努力し、今日に至っております。

これまでのスポーツ活動は、スポーツ少年団、学校運動部、地域のスポーツクラブ等がそれぞれ別個に活動してきました。また、わが国のスポーツは、主に学校を中心に行われてきました。そのため、地域に根ざしたクラブ組織の土壌に乏しく、学校を卒業してしまうとスポーツに接する機会がめっきり少なくなり、生涯を通してスポーツをすることが非常に困難な状況、それがわが国のスポーツの現状であると感じております。しかし、これからは、一人の一生涯といった長い期間に対応し、更に次の世代に受け継ぐことができるような基盤を作り上げるため、それぞれの組織が少しずつ変化していくことが重要であると考えます。こうした状況を改善し、誰もが、いつでも、どこでも、生涯を通してスポーツに親しむことができる環境を創り出していくことが大切であり、高齢期をどのように過ごすか、また、かつてない少子社会の中で、スポーツを通じて子どもたちをどのように育てていくのかといった問題が、今後取り組むべき最も重要な課題であると考えております。

そうした点も含め、これからの望ましいスポーツの在り方について考えた場合、これまでのスポーツに対する考え方や取り組み方を180度転換し、思い切った施策を展開することが求められ、そのきっかけとなるのが「総合型地域スポーツクラブ」ではないでしょうか。

そのなかで、スポーツ少年団は、これからの総合型地域スポーツクラブの核となり、それぞれの地域において中核的役割を担うことが期待されます。21世紀をたくましく生きる青少年を育成していくためには、青少年のスポーツを振興し、心身ともに健全な育成・発達を促すとともに、自己責任やフェアプレーの精神、仲間との交流を通じてコミュニケーション能力や豊かなこころと他人を思いやるこころを育成していく必要があり、スポーツ少年団の果たす役割が極めて重要となってくると思います。

総合型地域スポーツクラブがなかなか実行に移せないのは、「行政の仕組みが変わらないと」、「学校の部活動を変えないことには」、「指導者の意識が変わらないと」といった様に、「先ず、よそが変わらないとうちも変われない」といったわが国特有の横並び意識は、久慈市も例外なく原因として潜んでいると思います。また、「なぜ、わざわざ総合型地域スポーツクラブを作らなければならないのか」、「今のままで何がいけないのか」といった疑問の声も少なくなく、総合型地域スポーツクラブの趣旨・目的は、まだまだ地域住民のレベルまでは浸透していないのが実情だと感じております。

当協会では、総合型地域スポーツクラブは今後少なくとも10年先、20年先を見据え、新たな地域の財産として、次世代に受け継がれていく価値ある取り組みであると期待しており、高齢者や子どもたちが笑顔で生き生きとスポーツに親しみ、人々も、個人単位や家族単位で、それぞれのライフスタイルのなかで、好きなスポーツを満喫している、そんな当たり前の風景が実現できるよう、総合型地域スポーツクラブを社会的な仕組み・システムへと発展させ、住民主導、行政支援型のシステムを市民全体に対して提案していきたいと思います。